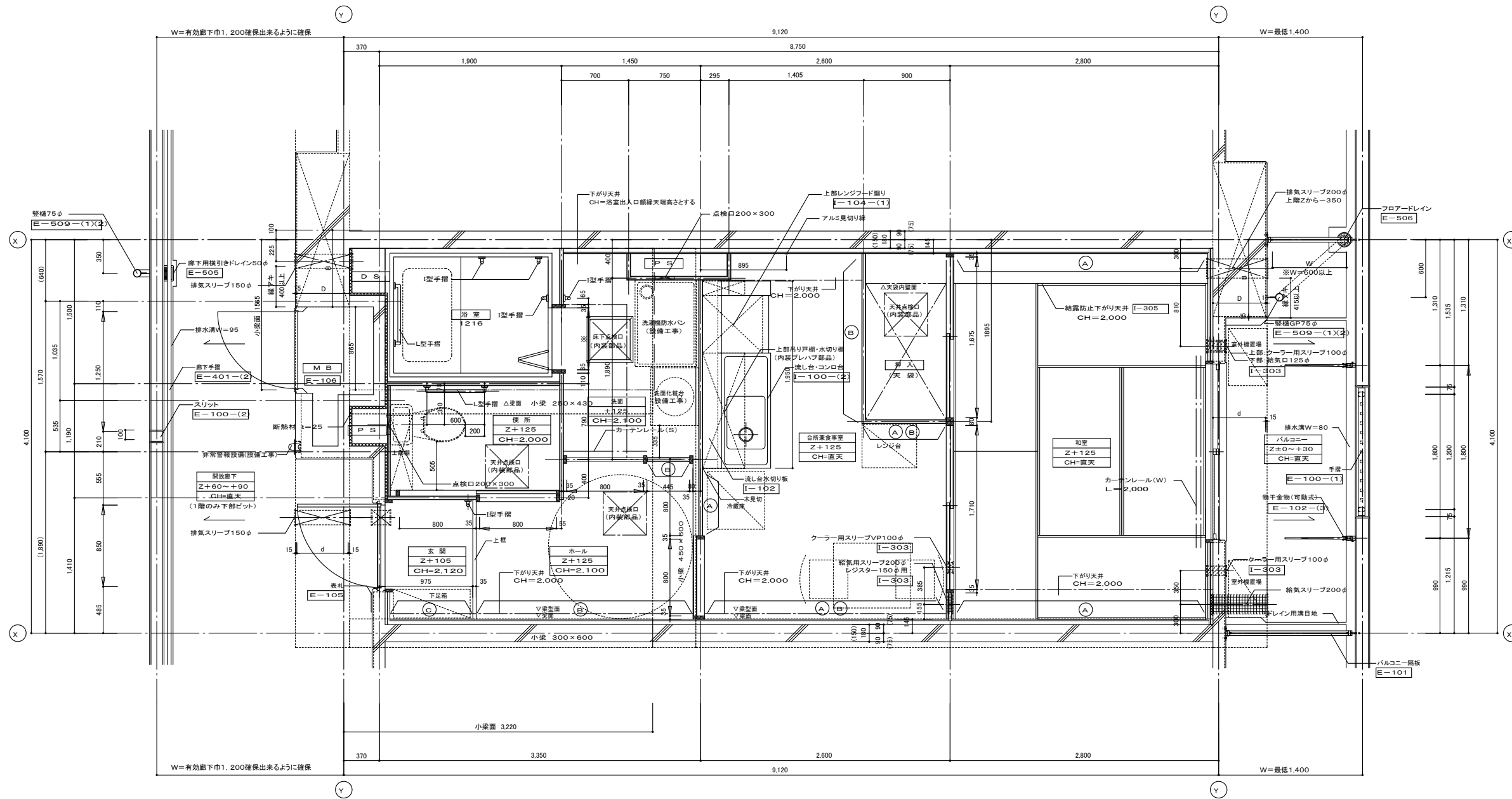


添付図8 標準平面詳細図(1DK)

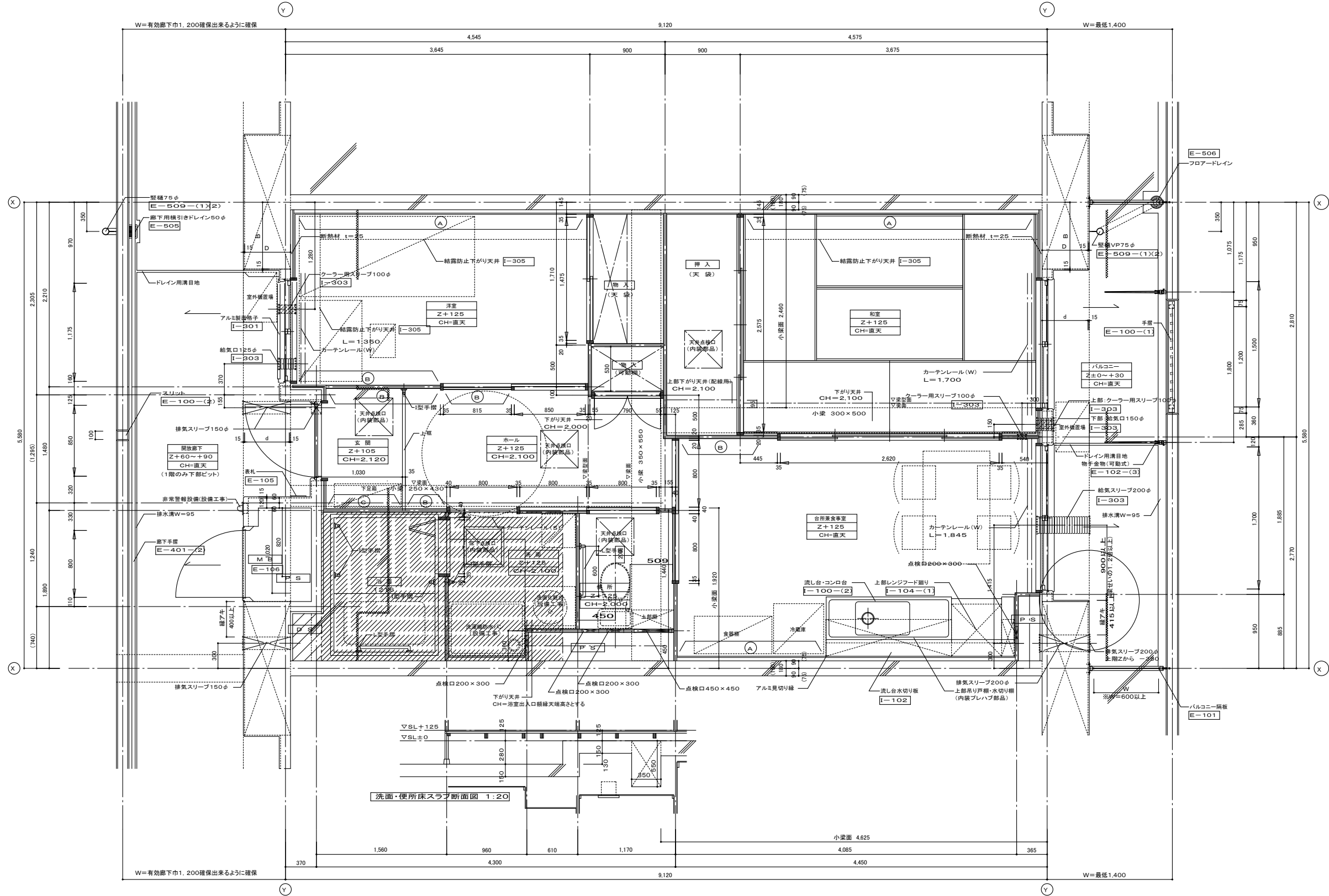
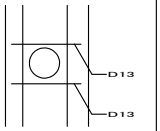


| | |
|--|------------------------------------|
| 排気スリーブ 給気口 給気スリーブ(ダクト有り) 部分はスラブ天Z+280 E-番号 I-番号 大阪府営住宅標準詳細設計図番号を示す。 部分詳細図番号を示す。 | クーラー用スリーブ 電気スリーブ 部分はスラブ天Z+60 |
|--|------------------------------------|

| |
|---|
| (A) 転倒防止付欄居 (B) 将来手摺下地補強 (C) 腰高家具等転倒防止金具取付用下地補強 |
|---|

- 特記事項**
- 1) 外壁及び直接外気に面する押入、物入の天井裏スラブ下(外壁面から900mm迄)には、ポリスチレンフォーム保温材B類3種 (JISA9511)厚さ25mmを躯体に打ち込む事。
 - 2) 共用廊下、バルコニーのドレイン・壁端の位置については平面参照のこと。
 - 3) 特記なき限り、床下点検口は口450×450、天井点検口は口450×450とする(内装部品)。
 - 4) D・B寸法は柱巾、d寸法は梁巾を示す(構造図による)。()寸法は構造による。
 - 5) *印は各メーカー仕様の寸法による。
 - 6) 表面の結露防止下がり天井については、外壁面等(外壁面、EVホールや住居以外の室等に接する面)の場合に設けること。

- ※設計上の留意事項**
- ・()内寸法は、柱寸法に応じて変動させること。
 - ・階高は、Zレベルから大梁構造寸法下、H=2,000を確保すること。
 - ・1階一般住戸は、MAJハウスタイプ外部廊下下のレベル差を考慮し、スロープを設け階高を検討すること。
 - ・家具(食卓、食器等)、冷蔵庫は設計時削除のこと。
 - ・排気スリーブ位置は設備と打合せの上、スリーブ図にも記入のこと。
 - ※階高は2,750を基準とする。



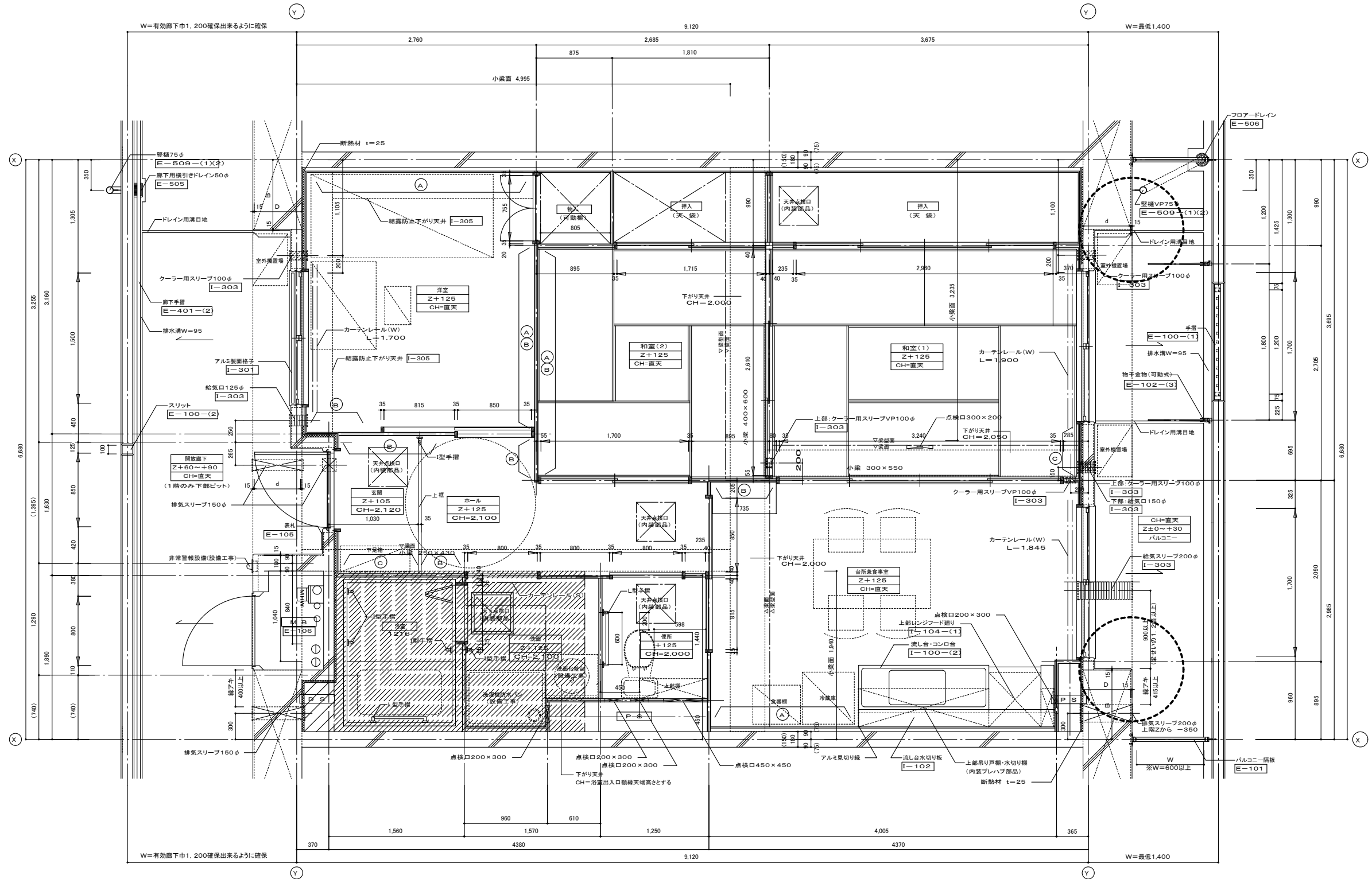
洗面・便所床スラブ断面図 1:20

| | | | |
|-------------------|--|--|--|
| <p>凡</p> <p>例</p> | <p>換気スリブ</p> <p>給気口</p> <p>給気スリブ(ダクト有り)</p> <p>部分スラブ天SL-280</p> <p>E-番号 大阪府営住宅標準詳細設計図番号を示す。</p> <p>I-番号 部分詳細図番号を示す。</p> <p>室名</p> <p>床高さ(FL)</p> <p>天井高さ</p> | <p>クーラー用スリブ</p> <p>電気スリブ</p> <p>部分スラブ天Z+60</p> | <p>(A) 転倒防止付欄干</p> <p>(B) 将来手摺下地補強</p> <p>(C) 腰高家具等転落防止金具取付用下地補強</p> |
|-------------------|--|--|--|

| | |
|---|--|
| 特 | <p>1) 外壁及び直接外気に面する押入、物入の天井裏スラブ下(外壁面から900mm迄)には、ポリスチレンフォーム保温材B類3種 (JISA9511)厚さ25mmを躯体に打ち込む事。</p> <p>2) 共用廊下、バルコニーのドレイン・壁端の位置については平面図参照のこと。</p> <p>3) 特記なき限り、床下点検口は口450×450、天井点検口は口450×450とする(内装部品)。</p> <p>4) D・B寸法は柱巾、d寸法は梁巾を示す(構造図による)。()寸法は構造による。</p> <p>5) *印は各メーカー仕様寸法による。</p> <p>6) 妻面の結露防止下がり天井については、外壁面等(外壁面、EVホールや住居以外の室等に接する面)の場合に設けること。</p> |
|---|--|

| | |
|---|---|
| 事 | <p>※設計上の留意事項</p> <p>() 内寸法は、柱寸法に応じて変動させること。</p> <p>・階高は、Zレベルから大梁構造寸法下、H=2,000を確保すること。</p> <p>・1階一般住戸は、MAJハウスタイプ外部廊下とのレベル差を考慮し、スロープを設け階高を検討すること。</p> <p>・家具(食卓、食器等)、冷蔵庫は設計時削除のこと。</p> <p>・換気スリブ位置は設備と打合せの上、スリブ図にも記入のこと。</p> <p>※階高は2,750を基準とする。</p> |
|---|---|

添付図8 標準平面詳細図(3DK)



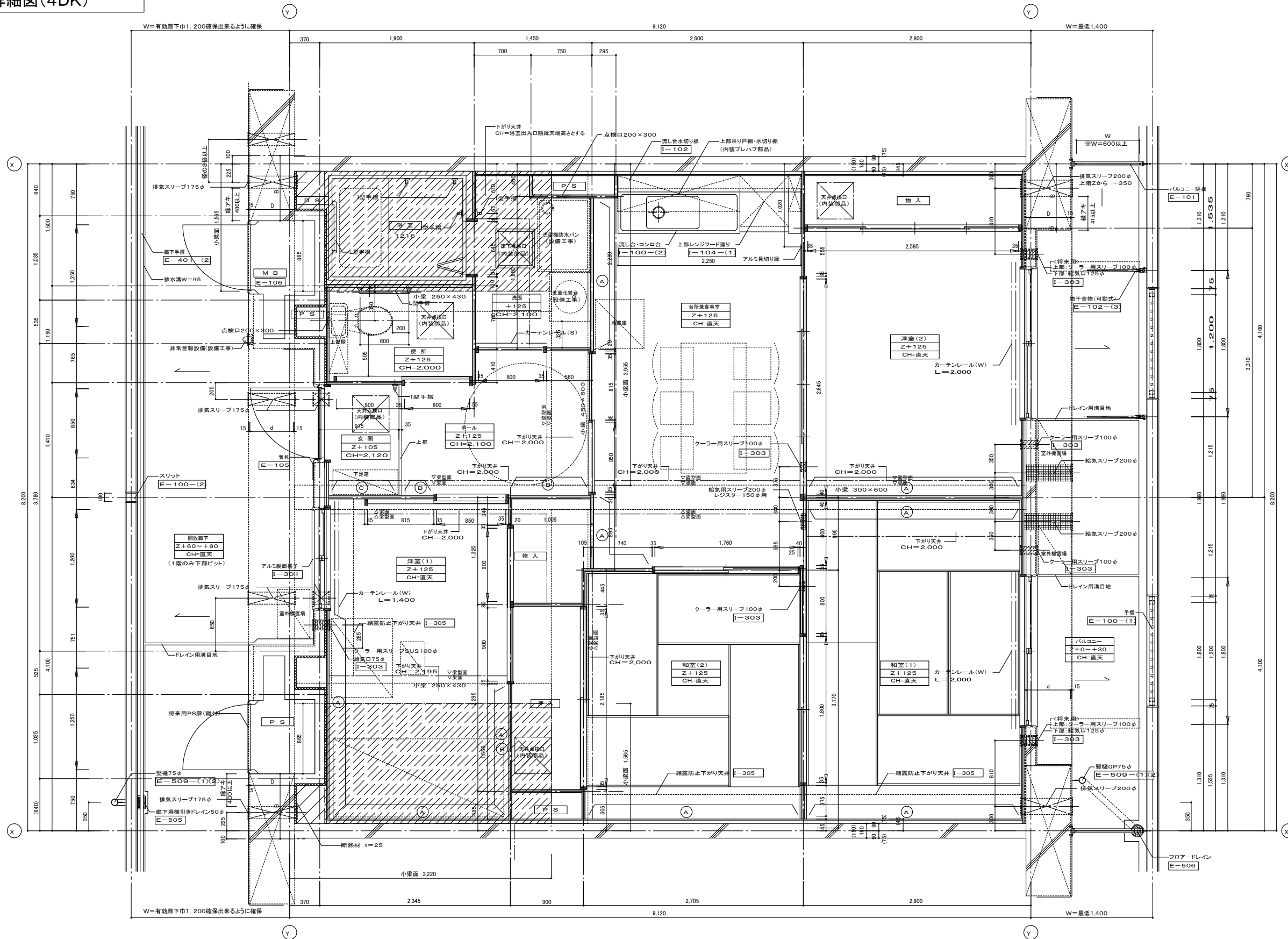
| | | | | |
|---|--|-------------------------------|--|---------------------|
| 凡 | | 排気スリーブ 給気口 | | クーラー用スリーブ |
| | | 給気スリーブ(ダクト有り) 部分スラブ天SL-280 | | 電気スリーブ |
| 例 | | E-番号 大阪府住宅標準詳細設計図番号を示す。 | | I-番号 部分詳細図番号を示す。 |
| | | 室名 床高さ(FL) 天井高さ | | |

| | |
|--|--------------------|
| | 転倒防止付欄干 |
| | 将来手摺下地補強 |
| | 腰高家具等転倒防止金具取付用下地補強 |

- 特記事項
- 1) 外壁及び直接外気に面する押入、物入の天井裏スラブ下(外壁面から900mm以下)には、ポリスチレンフォーム保温材B類3種(JISA9511)厚さ25mmを躯体に打ち込む。
 - 2) 共用廊下、バルコニーのドレイン・壁紙の位置については平面図参照のこと。
 - 3) 特記なき限り、床下点検口は口450×450、天井点検口は口450×450とする(内装部品)。
 - 4) D・B寸法は柱巾、d寸法は梁巾を示す(構造図による)。()寸法は構造による。
 - 5) *印は各メーカー仕様の寸法による。
 - 6) 表面の結露防止下がり天井については、外壁面等(外壁面、EVホールや住居以外の室等に接する面)の場合に設けること。

- ※設計上の留意事項
- ・()内寸法は、柱寸法に応じて変動させること。
 - ・階高は、2レベルから大梁構造寸法下、H=2,000を確保すること。
 - ・1階一般住戸は、MAJハウスタ입外部廊下とのレベル差を考慮し、スロープを設け階高を検討すること。
 - ・家具(食卓、食器等)、冷蔵庫は設計時削除のこと。
 - ・排気スリーブ位置は設備と打合せの上、スリーブ図にも記入のこと。
 - ※階高は2,750を基準とする。

添付図8 標準平面詳細図(4DK)



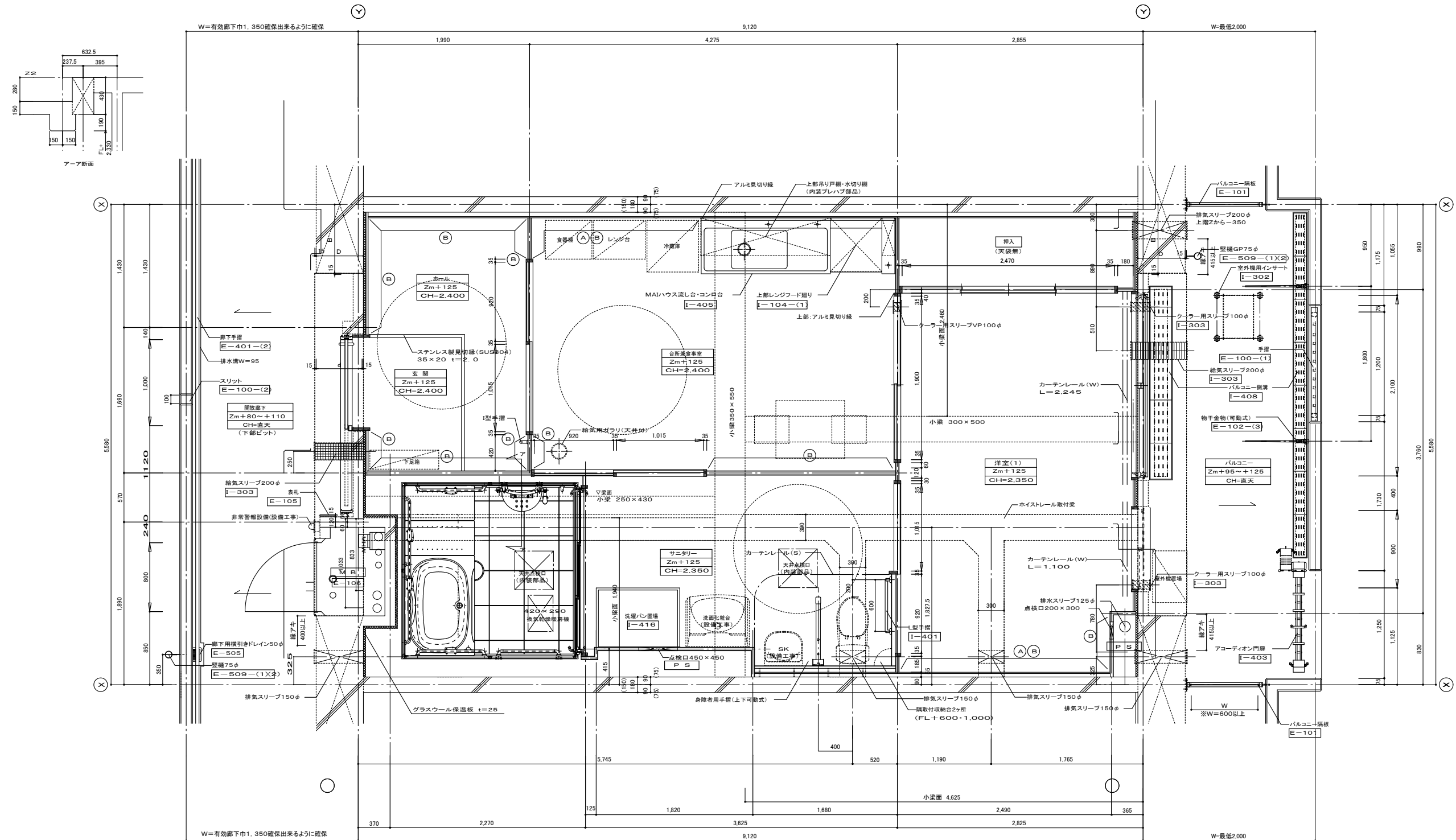
| | | | | |
|---|--|---------------|---------------------|-------------|
| 凡 | | 排気スリーブ | | クーラー用スリーブ |
| | | 給気口 | | 電気スリーブ |
| 例 | | 給気スリーブ(ダクト有り) | | 部分はスラブ天Z+60 |
| | | 部分はスラブ天SL-280 | | 部分はスラブ天Z+60 |
| | | E-番号 | 大阪府営住宅標準詳細設計図番号を示す。 | |
| | | I-番号 | 部分詳細図番号を示す。 | |
| | | 室名 | | |
| | | 床高さ(FL) | | |
| | | 天井高さ | | |

| | |
|--|--------------------|
| | 転倒防止付欄 |
| | 将来手摺下地補強 |
| | 腰高家具等転倒防止金具取付用下地補強 |

- 特記事項
- 1) 外壁及び直接外気に面する押入、物入の天井裏スラブ下(外壁面から900mm迄)には、ポリスチレンフォーム保温材B種3種 (JISA9511) 厚さ25mmを躯体に打ち込む。
 - 2) 共用廊下、バルコニーのドレイン・壁端の位置については平面図参照のこと。
 - 3) 特記なき限り、床下点検口は口450×450、天井点検口は口450×450とする(内装部品)。
 - 4) D・B寸法は柱巾、d寸法は梁巾を示す(構造図による)。()寸法は構造による。
 - 5) *印は各メーカー仕様の寸法による。
 - 6) 表面の結露防止下がり天井については、外壁面等(外壁面、EVホールや住居以外の室等に接する面)の場合に設けること。

- ※設計上の留意事項
- ・() 内寸法は、柱寸法に応じて変動させること。
 - ・階高は、Zレベルから大衆構造寸法下、H=2,000を確保すること。
 - ・1階一般住戸は、MAJハウスタイプ外部廊下とのレベル差を考慮し、スロープを設け階高を検討すること。
 - ・家具(食卓、食器等)、冷蔵庫は設計時削除のこと。
 - ・排気スリーブ位置は設備と打合せの上、スリーブ図にも記入のこと。
- ※階高は2,750を基準とする。

添付図8 標準平面詳細図(MAI-1DK)



| | | |
|---|---|--|
| 凡 | <p>排気スリーブ 給気口 給気スリーブ(ダクト有り) 部分スラブ天SL-280 E-番号 I-番号 大阪府住宅標準詳細設計図番号を示す。 部分詳細図番号を示す。</p> | <p>クーラー用スリーブ 電気スリーブ 部分スラブ天Z+60</p> |
| 例 | <p>室名 床高さ(FL) 天井高さ</p> | |

| | |
|-----|--------------------|
| (A) | 転倒防止付欄干 |
| (B) | 将来手摺下地補強 |
| (C) | 腰高家具等転落防止金具取付用下地補強 |

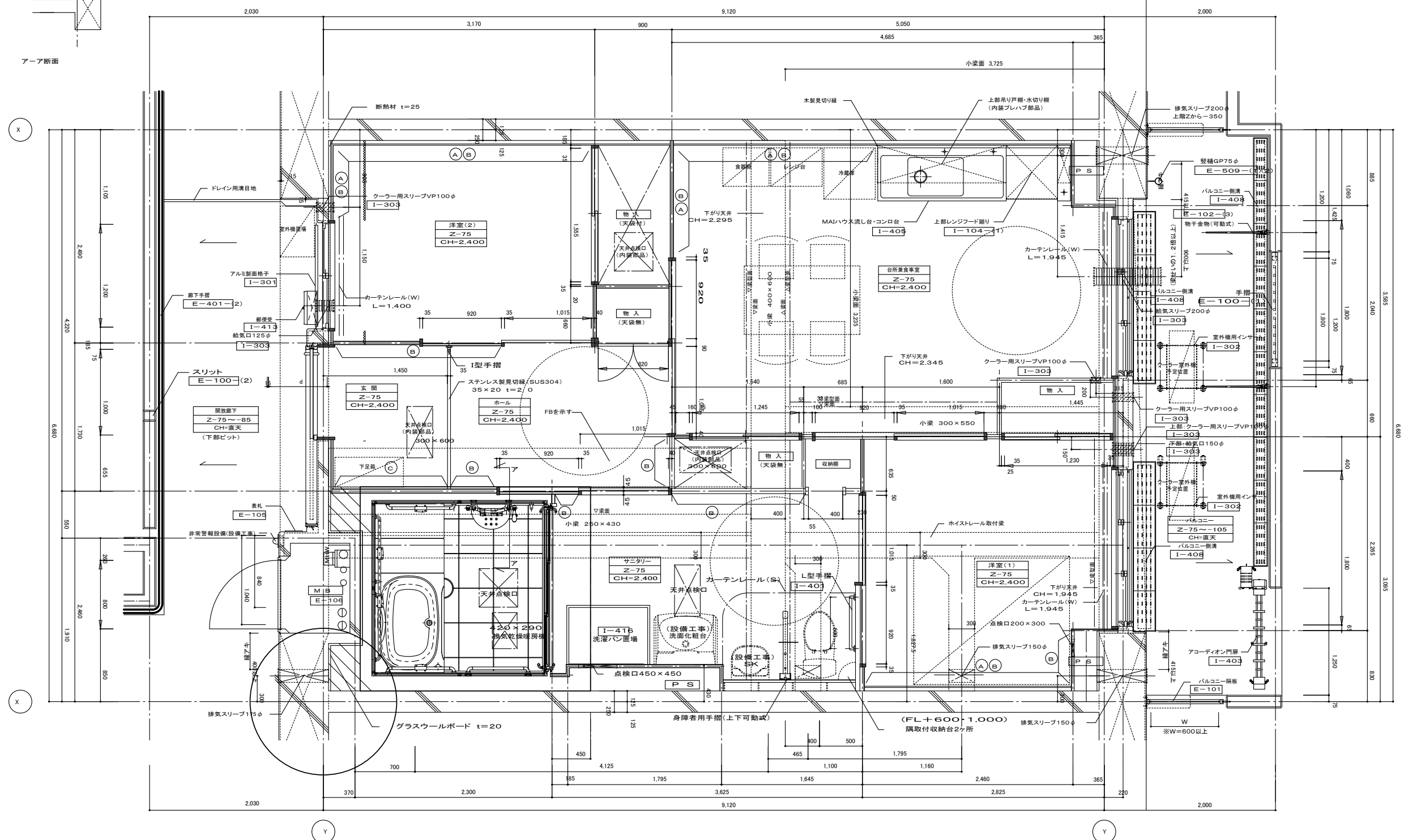
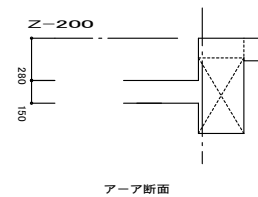
特記事項

- 1) 外壁及び直接外気に面する挿入、物の天井裏スラブ下(外壁面から900mm迄)には、ポリスチレンフォーム保温材B類3種 (JISA9511)厚さ25mmを躯体に打ち込む。
- 2) 共用廊下、バルコニーのドレイン・壁樋の位置については平面図参照のこと。
- 3) 特記なき限り、床下点検口は450×450、天井点検口は450×450とする(内装部品)。
- 4) D・B寸法は柱巾、d寸法は梁巾を示す(構造図による)。()寸法は構造による。
- 5) *印は各メーカー仕様の寸法による。
- 6) 表面の結露防止下がり天井については、外壁面等(外壁面、EVホールや住居以外の室等に接する面)の場合に設けること。

※設計上の留意事項

- ・()内寸法は、柱寸法に応じて変動させること。
- ・階高は、Zレベルから大梁構造寸法下、H=2,000を確保すること。
- ・1階一般住戸は、MAIハウスタイプ外部廊下とのレベル差を考慮し、スロープを設け階高を検討すること。
- ・家具(食卓、食器等)、冷蔵庫は設計時削除のこと。
- ・排気スリーブ位置は設備と打合せの上、スリーブ図にも記入のこと。
- ・※階高は2,750を基準とする。

添付図8 標準平面詳細図(MAI-2DK)



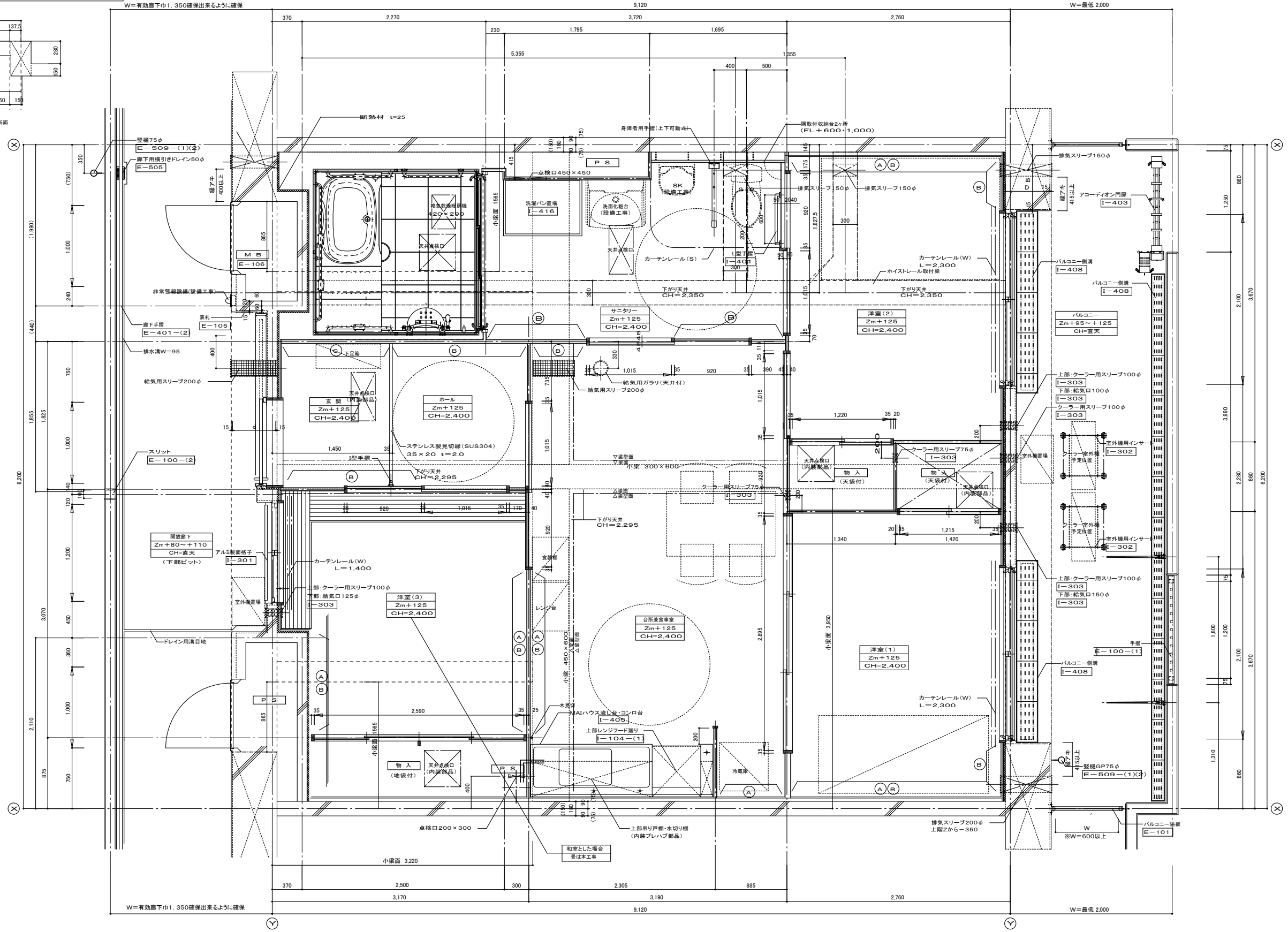
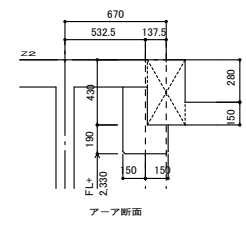
| | | |
|---|---|-----------------------------------|
| 凡 | 排気スリーブ 給気口 給気スリーブ(ダクト有り) 部分スラブ天SL-280 E-番号 I-番号 室名 床高さ(FL) 天井高さ | クーラー用スリーブ 電気スリーブ 部分スラブ天Z+60 |
|---|---|-----------------------------------|

| | |
|-------------------|---|
| (A) (B) (C) | 転倒防止付欄 将来手摺下地補強 腰高家具等転落防止金具取付下地補強 |
|-------------------|---|

- 特記事項
- 1) 外壁及び直接外気に面する押入、物入の天井裏スラブ下(外壁面から900mm迄)には、ポリスチレンフォーム保温材B類3種(JISA9511)厚さ25mmを全体に打ち込む。
 - 2) 共用廊下、バルコニーのドレイン・壁障の位置については平面図参照のこと。
 - 3) 特記なき限り、床下点検口は口450×450、天井点検口は口450×450とする(内装部品)。
 - 4) D・B寸法は柱巾、d寸法は梁巾を示す(構造図による)。()寸法は構造による。
 - 5) *印は各メーカー仕様の寸法による。
 - 6) 表面の結露防止下がり天井については、外壁面等(外壁面、EVホールや住居以外の室等に接する面)の場合に設けること。

- ※設計上の留意事項
- ・()内寸法は、柱寸法に応じて変動させること。
 - ・階高は、Zレベから大梁構造寸法下、H=2,000を確保すること。
 - ・1階一般住戸は、MAIハウスタイプ外部廊下とのレベル差を考慮し、スロープを設け階高を検討すること。
 - ・家具(食卓、食器等)、冷蔵庫は設計時削除のこと。
 - ・排気スリーブ位置は設備と打合せの上、スリーブ図にも記入のこと。
 - ・※階高は2,750を基準とする。

添付図8 標準平面詳細図(MAI-3DK)



| | | | | |
|---|--|-----------------------------|--|---------------------|
| 凡 | | 排気スリプ | | クーラー用スリプ |
| | | 給気口 | | 電気スリプ |
| 例 | | 排気スリプ(ダクト有り) | | 部分はスラブ天Z+60 |
| | | 部分はスラブ天SL-280 | | 部分はスラブ天Z+60 |
| | | E-番号 大阪府営住宅標準詳細設計図番号を示す。 | | I-番号 部分詳細図番号を示す。 |
| | | 室名 | | 床高さ(FL) |
| | | 天井高さ | | |

| | |
|--|--------------------|
| | 転倒防止付欄干 |
| | 将来手摺下地補強 |
| | 腰高家具等転倒防止金具取付用下地補強 |

特記事項

- 1) 外壁及び直接外気に面する押入、物入の天井裏スラブ下(外壁面から900mm迄)には、ポリスチレンフォーム保温材B類3種 (JISA9511)厚さ25mmを躯体に打ち込む。
- 2) 共用廊下、バルコニーのドレイン・壁端の位置については平面図参照のこと。
- 3) 特記なき限り、床下点検口は450×450、天井点検口は450×450とする(内装部品)。
- 4) D・B寸法は柱巾、d寸法は梁巾を示す(構造図による)。()寸法は構造による。
- 5) *印は各メーカー仕様による。
- 6) 結露防止下がり天井は北側居室の北側壁面に設けること。
妻面の結露防止下がり天井については、外壁面等(外壁面、EVホールや住居以外の室等に接する面)の場合に設けること。

※設計上の留意事項

- ・()内寸法は、柱寸法に応じて変動させること。
- ・階高は、Zレベルから大梁構造寸法下、H=2.000を確保すること。
- ・1階一般住戸は、MAIハウスタイプ外部廊下とのレベル差を考慮し、スロープを設け階高を検討すること。
- ・家具(食卓、食器等)、冷蔵庫は設計時削除のこと。
- ・排気スリプ位置は設備と打合せの上、スリプ図にも記入のこと。
- ・※階高は2.750を基準とする。